

アジア展開へ 台湾が試金石

新潟で食品輸出講習会

にいがた産業創造機構（NICO）は、台湾への食品輸出をテーマにしたセミナーを新潟市中央区で開いた。NICO海外ビジネスコーディネーターの畠中則和氏が講師を務め、日本と価値観が近い台湾は「アジアや中国への展開を図る上でも試金石になる」と解説した。

畠中氏は、台湾進出のコンサルティング事業を手掛ける則和企業管理顧問有限公司（台北市）トップの董事長。台湾は一人当たり購買力が日本を上回り、特に台北市の消費が大きいと現状を説明した。

現地で最大の商戦となる春節（1～2月）は前年7月に商談が始まり、年2回

あるギフトの慣習でも需要が見込めると指摘。「安心安全でおいしいという、日本のイメージに合った商品が売れる。購買層は二極化しており、高級志向に絞ってもいい」と助言した。

市場に参入するには、目的や目標を練った上で「3年計画を立て、こつこつと継続する心構えも大切だ」と辛抱強さも求めた。

セミナーには約30人が参加した。